

社長のひとこと（第15回）

当社の技術開発について思う

私は今迄、技術開発を専門にやった事も無く研究者の経験もありませんが、この製鉄エンジニアリングの事業に長く携わって来て、開発について自分なりの思いがあり、今回はその話をしたいと思います。

この製鉄の世界は、製鉄業という鉄を生み出す事業と、設備を供給する製鉄エンジニアリングの事業が車の両輪を成すものです。どんなに優秀な操業技術を持っていても、それを実現する良い設備が無ければ総合的な製鉄技術の発展は無いのです。

もちろん製鉄業は私達のお客様であり、敬意を払って対応しなければなりません。こと総合的な製鉄技術の発展の為には、私達も全く同じ責任を持って技術開発をしていく責任が有ります。

今、当社は設立以来、毎年事業の拡大を続けていますが、忙しく日常業務に専念する余り、どうしても技術開発の面に於いては、つつい先送りになりがちであり、最近では技術や商品の開発に多くの時間と労力を裂けなくなって来ている様に見えます。

私達のエンジニアリング事業は、この技術開発が停滞すると忽ちマーケットから脱落するのです。当社には今は独自の研究部門を持っていませんが、技術開発の勘所を失わない為にも、常に製鉄設備ユーザーである製鉄会社のニーズを探る事や、公的研究機関や大学、とりわけ大学との新しい技術に関する CO-WORK はこれから一層重要性を増すと思います。

いつも言う事ですが、私達の周りには余り天才はいません。しかし日本民族の特性である努力するという資質は、社員の皆さんは十分に持ち備えていると思います。当社の技術は長年掛かって一歩ずつ前進し、その結果を積み重ねて行く事が重要であり、そうする事が製鉄エンジニアリングのプロとしての義務だと思っています。

しかし、この技術を積み重ねる為には、いつかは技術革新の壁を越える必要も有ります。時には思い切って過去の成功や栄光を切り捨て発想の転換を行い、自分自身を追い詰める事も新しい発想に繋げる大事な事だと思っています。

こうして技術に関して飽くなき追求を行い続ける事が出来る会社が、最後に圧倒的な技術力を手に入れる事が出来ると信じています。

藤原 義之